

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岸町小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語では漢字学習の定着度合い、算数では四則計算の活用度合いに差が見られる。 <指導上の課題> 授業中・家庭学習を両輪とし、児童が基礎的な学習に取り組み、復習する機会を確保する必要がある。	従来の練習問題(授業)や宿題(家庭学習)に加え、児童が主体的に補充的に取り組める「ドリルパーク」「スタディ・サプリ」等も活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。同時に、SSDB等を活用し、教員が適切に児童の理解度を把握したり取組への姿勢を評価したりする。【毎日実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」に関する問題、算数「場面を想定した」応用的な問題に正対することに課題が見られる。 <指導上の課題> 児童がどの段階で慣れているのかを把握することで個に対応しての支援を考えいく必要がある。	国語の文法・作文指導等、文章表現の基盤となる学習を充実させ、児童の「書くこと」への不安全感を払拭する。(学習計画に沿った時期) →他の考え方を表現し合い、受け合ふ言語活動を、特定の教科に限らず適宜設定する【毎日実施】 個々の発表・制作やグループ学習では、個に応じた課題設定ができるよう、学習内容を正確に把握できる導入の工夫を実施する。【毎日実施】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語・算数どちらも高い数値を示している。高い水準で考えた場合、課題を挙げるならば、以下が考えられる。 国語では「情報の扱い方」に関する事項が挙げられる。文書や図解などを捉える際、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方に不慣れな児童があると考えられる。学習内容や単元の目標に応じて、集められた材料を分類したり隣接付けたりして、伝え合う学習を意図し授業に取り入れていく。話の内容を捉えと比較しながら聞き、自分の考え方をまとめる機会も増やしていく。 算数では「分数の意味や表現方法」や「理解(教と計算)」と「身の回りのものの大さきを単位を用いて表現する(測定)」の2項目においては他の項目と比べるとやや苦手と感じている児童がいると考えられる。また、直線図や計量器などもりの読み取りを踏まえた問題であったことが共通しているので、「盛りが表す数」の考え方方に注目していく必要がある。	調査の振り返り(4月) 調査本問題の分析
思考・判断・表現	国語・算数どちらも高い数値を示している。高い水準で考えた場合、課題を挙げるならば、以下が考えられる。 国語では「文章中の情報を取捨選択・整理・再構成」「複数の文章から導かれる目的・意図の読み取り」「要旨をとらえる」「要旨をまとめる」といった学習内容に特徴が見られる児童が多い。いずれも「目的に応じて」という点が共通していることから、活動内容や単元の目標を明確に理解できる授業を今後も続けていく。合わせて、自分の考えを文章で書いたり、言葉で相手に伝わせる活動により一層充実させていく。 算数においては「特定の領域と考え方よりも、答えた導き出までの過程を言葉や式、図を使って表現することを苦手としている児童がいると考えられる。解答までのプロセスを大切に扱い、一人ひとりが考えを表現できる時間を十分に確保していく。題意に対して正対した解答に課題が見られる児童が多い。今後の授業において、題意を正確に捉えられるよう、全体指導に加え個別の指導もこれまで同様充実させていく。	調査の振り返り(4月) 調査本問題の分析

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディ・サプリ」等は授業後に復習やまとめて活用するだけでなく、定期的に振り返る機会として家庭学習の課題に取り入れることで、基礎的基本的な知識及び技能の定着を出している。 SSDBに関しては、児童の発達段階や教科の特性によっては、同一形式や同等の頻度で行うことが難しく、学年・学級による差異が現状観察される。	SSDBの活用体制を整備していく。【通年】
思考・判断・表現	A	「書く」活動も含め、自分の考え方を表現する言語活動においては、各学年、児童の実態に応じて取組を充実させている。既存の表現方法にとらわれず、タブレット端末などICTを活用したり、表現方法や発表形式を児童が選択する機会を設けたりするなど個に応じた学習として効果を発揮させている。	ICTの効率的な活用方法・個別最適な学習の実践方法などの研修を定期開催し、一層充実させる【通年】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岸町小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図ることができた。しかし、国語「我が国の言語文化に関する事項」及び理科「地球を柱とする領域」については、定着の度合いに差が見られた。 SSDBの管理体制が定着したので、今後はそのデータをどのように活用して、より個別最適化された学習に生かすか、研修を通して教職員で検討することが大切であると考える。
思考・判断・表現	R6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、目標を達成することはできたが、小1に関しては市の平均よりも若干下回っている。 また、資料や実験結果を分析したり、文章の移りわりや段落相互の関係を捉えたりする力に課題が見られることから、自分の考えを表す時間と授業で多く取り入れることが大切であると考える。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】算数・理科において定着の度合いに差が見られる。国語の「書くこと」に関する問題の正答率がやや低い。 【指導上の課題】SSDB等を活用した、個別最適な学びについての理解が深まっていない児童が自分の思いや考え方を、書いて表す機会が減っている。	→ 「ドリルバーク」等を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。【毎日実施】 SSDBを活用し、児童一人ひとりの学習状況や課題について把握し、指導に生かす。【毎日実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】算数の「変化と割合」に関する問題に対する正答率が低い。 問題の場面や題意を捉えきれていない児童が多い。 【指導上の課題】課題発見能力を育成する授業が不十分である。	→ 問題・課題に対して、自分がどのように学習に取り組んだのか振り返りを書いて確かめることができます。 → 【R6さいたま市学習状況調査】これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③職員会議・校内研修筆記 「ドリルバーク」「スタディサプリ」等の学習支援ソフトを活用することで、既習内容を定着させることができた。 SSDBでは、おはようメーターを毎日確実に実施することで、「気持ち」「就寝時間」の項目において肯定的な回答の割合が徐々に向上した。
思考・判断・表現	B	R6年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、小1が91.2%、小6が95.1%であった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の情報の扱いに関する問題に課題が見られた。解答類型を見ると、中心となる言葉と関係する言葉を捉え切れない児童がいると考えられる。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解するための学習活動を多く取り入れることが大切である。 算数の除数が小数である場合の除法の計算についての問題に課題が見られた。解答類型を見ると、計算の方法について、なぜその方法で答えが求められるのか、理解しきれていない児童がいると考えられる。	
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。事実と感想、意見とを区別して書くことなどして、書き表し方を工夫する学習活動を継続的に取り入れることが大切である。 算数の球の直徑の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積を求めるために課題が見られた。解答類型を見ると、体積を求める問題にに対して、面積の公式を用いて答えを求める児童が一定数いた。知識というよりも、題意を捉え切れていないことが原因であると考えられる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。前年度に習った漢字を覚えていない児童が一定数いた。また、文の中の修飾と被修飾の関係など、文の構成についての理解にも課題が見られた。 教科を向けて文章を書く活動を多く取り入れることと、既習の漢字は積極的に使うよう継続的に指導することが必要であると考えられる。
思考・判断・表現	国語の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことについて課題が見られた。朝読書や図書の時間等を活用して、字を読む習慣をつけさせるとともに、登場人物や段落相互の関係について、図や表に表す学習活動を積極的に取り入れることが必要であると考えられる。 理科の「地球」を柱とする領域に課題が見られた。知識を基に、事象について、なぜそうなるのか順序立てて考える学習活動を多く取り入れる必要があると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	
知識・技能	B	授業のまとめなどで、「ドリルバーク」「スタディサプリ」等を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図ることができた。 SSDBについては、取組に学級によって差が見られるため、管理体制を確立し、全ての学級で着実に実施できるようにする。	SSDBのチェック体制を確立させる。【通年】
思考・判断・表現	B	振り返りの時間は、教科等によらず実施することが定着しつづける。また、タブレット等のICT機器を活用することにより、児童どうし、振り返りを共有することができ、学力向上に繋がった。	変更なし。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)